SOCIAL
MASTER
SCHOOL

生涯現役

生涯現役
夢追塾

生涯現役
夢追塾

11期生

www.facebook.com/yumeoijuku/
夢追塾ホームページ www.yumeoi.org/

お問い合せ先
生涯現役夢追塾事務局 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7（NPO法人 里山を考える会 内）
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:info@yumeoi.org

※「生涯現役夢追塾」は、北九州市より指定管理者の指定を受け、「北九州市社会福祉協議会・里山を考える会 共同事業体」が運営を行っています。

これからの夢追塾に期待すること

生涯現役 夢追塾
名誉塾長
北橋 健治

平成18年度に開塾した生涯現役夢追塾は、夢や志のある50歳以上の方々が、これまで培ってこられた技術や経験、能力や人脈等を活かしながら、「生涯現役」として社会貢献や経済活動などの担い手として活躍していただくことを目指しています。第11期生の皆様を含め、これまでに400名を超える皆様が卒塾されています。

塾生の皆様におかれましては、10ヶ月間のカリキュラムを通して、知識や経験を深めるとともに、塾生同士や講師の先生方、OB・OGとも積極的に意見交換を行われ、幅広いネットワークを構築されています。また、北九州市立大学ゼミ生とのコラボは、意欲や感性に新鮮な刺激となり、今後の活動の大切な糧となっていると伺っています。

こうした当塾での学びや活動を活かされ、今後もアクティブシニアの中核として存分に力を発揮していただき、本市の地域づくりを支える重要な役割を担っていただくことを期待しています。

現在、本市では、地方創生の成功モデルを目指し、「産・学・官・金・労・言・住」が一体となって、にぎわいを創出する様々な取組を行っています。こうした中、NPO法人の調査で子育て環境が5年連続で政令指定都市第1位となったほか、雑誌の「50歳から住みたい地方ランキング」で全国第1位となるなど、子育てしやすいまち、シニアの方が住みやすいまちとして高い評価を受けています。

今後も、子どもからシニアの方まで安心して豊かに暮らせるまちづくりに努めてまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、11期生の皆様の今後ますますのご活躍を祈念しますとともに、夢追塾を支えていただいた関係の皆様に深く感謝を申し上げます。

夢追塾のミッション

生涯現役夢追塾は50歳以上の方を対象としています。長寿社会を迎えた中、新しいいきがいづくり、役割づくりのあり方を考えていかなくてはいけません。

ほとんどの人が退職しセカンドキャリアに移行していくなかで、新しいセカンドキャリアのあり方を夢追塾は提案しています。それは50歳以上の方々の今まで培ったスキルや経験を活かし、社会の課題を解決し世の中を変革していくことです。夢追塾では自分のためではなく、他人のため、地域のため、社会のために学びます。

50歳以上の方が社会に支えられるのではなく、社会を変革していくという未来を夢追塾から発信します。

生涯現役夢追塾 11期生

阿武 勲　あんの いさお
池浦 なほみ　いけうら なほみ
石本 弘文　いしもと ひろふみ
今永 博　いまなが ひろし
大辻 兼一　おおつじ けんいち
小川 裕司　おがわ ゆうじ
古賀 えみ子　こが えみこ
櫻木 準一　さくらぎ じゅんいち
定野 透　さだの とおる
重越 謙二　しげこし けんじ
嶋田 真里　しまだ まり
杣 巌　そま いわお
鳥飼 久敏　とりかい ひさとし
中村 恭子　なかむら きょうこ
縄手 富美　なわて ふみ
萩原 詩子　はぎわら うたこ
橋谷 政典　はしたに まさのり
原 三代子　はら みよこ
廣田 文代　ひろた ふみよ
松本 誠　まつもと まこと
森上 恭子　もりかみ きょうこ
矢治 悦子　やじ えつこ
山本 正明　やまもと まさあき

北九州市立大学経済学部 松永ゼミ

池上 はるか　いけがみ はるか
遠藤 雅樹　えんどう まさき
小川 裕馬　おがわ ゆうま
黒田 麻友　くろだ まゆ
高橋 里奈　たかはし りな
田原 千賀子　たはら ちかこ
土本 彩布　つちもと さほ
富野 滉平　とみの こうへい
原田 萌黄　はらだ もえぎ
松浦 成美　まつうら なるみ
大石 早和　おおいし さわ
齊脇 大駿　さいわき たいしゅん
佐山 弘記　さやま ひろき
橘 好　たちばな このみ
鳥越 小由姫　とりごえ こゆき
西 まりな　にし まりな
林 瑠美　はやし るみ
迎田 晶　むかえだ あきら
矢野 千春　やの ちはる
山下 凌　やました りょう
若松 亮介　わかまつ りょうすけ
和田 侑博　わだ ゆきひろ

「好き」は無敵。

阿武（あんの）　勲（いさお）さん

社会起業大学の現役講師である阿武さん。北九州市立大学大学院マネジメント研究科の卒業生でもある。仕事もあるため、今期入塾する予定では無かったが、誘われて参加することになった。正直、仕事との両立は大変で苦労することもあったが、入塾して良かったことは2つあるという。

1つめは、人脈が広がったこと。普段の仕事でも様々なプロジェクトに携わる阿武さんだが、塾生の中では一番歳下である。年齢も経歴も様々な塾生と関わることで、自分より上の世代が抱える課題なども見つけることができたそうだ。2つめは、新しい知識を得られたこと。コミュニティオーガナイジングやプロジェクトを通して神社についての知識などを得ることができ、大変おもしろく、仕事の息抜きにもなったし、仕事に使えることも見つかったという。卒塾後もAチームのプロジェクトはもちろん、他のチームのプロジェクトとも協力しながら北九州の魅力を発信していきたいと語る。

仕事もプロジェクトも楽しんでやっている様子がとても印象的だった。夢追塾と仕事の両立は大変だったと言いながらも、様々な活動をする阿武さんは「北九州を良くしたい」という想いが根幹をなしている。私は阿武さんの「なぜ働くの？」という問いにうまく答えられなかった。私も阿武さんのように何事も目的を持って楽しんで取り組めるようになりたい。まずは目の前にある就職活動や就職するうえで、働く目的を明確にしたいと思う。

インタビュアー／黒田（くろだ） 麻友（まゆ）
（北九州市立大学経済学部3年生）

もともと主婦で夫の会社の経理を手伝っていた池浦さんは自分の世界が狭いことを感じており、色々なことを知りたいという欲求から夢追塾に参加した。どこまでできるか不安があったが、心配したよりすんなりとなじむことができた。プロジェクトを進めるなかでチームで話し合い、情報を共有したことから「情報力」の伸びを感じた。また北九州に住んではいたがあまり地元と向き合う機会がなく、参加を機に改めて北九州の良さに気づくことができたという。チームの良かったところは一人一人が自分のやるべきことが分かっていて、その役割をきちんと果たせていたこと。プロジェクトは3月25日に東京でプレゼンテーションを控えており、5月中旬からは北九州でモニターツアーを計画している。「プロジェクトはまだスタート地点。まだまだこれからが本番だし、楽しみ」だと語った。夢は幅広い世代のコミュニケーションの場づくり。池浦さんの挑戦は始まったばかりだ。

好奇心が広げた世界と未来

池浦（いけうら） なほみさん

アメリカの大学で学び、帰国後は1人で会社を創業した石本さん。夢追塾を知ったのは、現役引退後、次のステップに進んだときだった。今まで培ってきた経験や知識を、ビジネスではなく、社会貢献に活かしたいと考えていた石本さんはすぐに入塾を決めた。「非常に多くのことを学べた」と、講義やグループワークを振り返って言う。今まで1人でやってきたために、チームでの活動に窮屈さを感じることもあったが、仲間がいる心強さを知ることが出来たのはとても大きく、卒塾後も活かせると感じている。石本さんの今後の目標は、祖父が初代会長を務めていた黒崎商店街の活性化だ。幼い頃の黒崎の賑やかさを知っているからこそ、現状に誰よりも寂しさを感じている。「だからこそ時代に合った方法が必要だ」と、商店街の人と協力することで、高齢者や働く女性などさまざまな人へ黒崎商店街を届けたいと話す石本さん。黒崎が再び賑わう日が楽しみだ。

仲間とともに、新しい地元を

石本（いしもと） 弘文（ひろふみ）さん

「男女関係なく意見を言い合える雰囲気で、話しやすかった」と聞き、男女関係なくというのは普通なのでは、と思った。しかし私も「年配の方は話を聞いてくれない」という先入観があったが、実際は学生の意見も積極的に取り入れようとしてくれる塾生の方が多く、それを感じてから発言しやすくなったことを思い出した。体験しないとわからないことは多い。先入観にとらわれないことで、行動や発言の幅を広げられることを実感した。

インタビュアー／橘（たちばな） 好（このみ）
（北九州市立大学経済学部4年生）

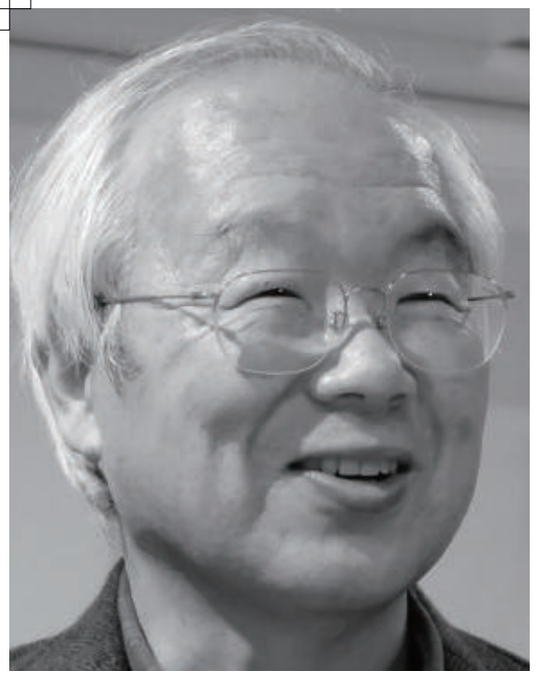
石本さんへのインタビューを通して学び続けることの大切さを感じた。私自身塾生の方々からたくさん学び、得られたことがたくさんある。塾生の方々の、自分が持っているものを活かし社会に貢献しようと生き生きしている姿。印象的だったその姿から、私が将来なりたいと憧れる大人像がそのひとつだ。来年から社会人になるが、「背中を見るプロジェクト」は憧れの大人への第一歩になったと強く感じている。

インタビュアー／大石（おおいし） 早和（さわ）
（北九州市立大学経済学部4年生）

出会いから広がる無限の可能性

今永（いまなが） 博（ひろし）さん

今永さんは知人に誘われ、夢追塾へ入ることを決めた。入塾して良かったことは、様々な経験を積んでいる方々と共に活動をすることができ、人脈が増えたことだという。これは今永さんが夢追塾で期待していたことの一つである。仕事関係以外の方と関わることができ、色々な想いをぶつけながら漠然としていたプロジェクトが一つの形になっていく。大変ではあったが、それ以上に学べたことが多くあった。何事も学び続けることで楽しさを発見することができる。そして活動を進めていくなかで、自分たちで考え、人を巻き込めるようにプロジェクトを売りこむ大切さを実感したという。卒塾後もプロジェクトを続け、共に広めていけるように頑張っていきたい。また市役所で働いてきた経験を活かし、情報提供をするなど色んな人の想いを実現できるようにサポートし、自身の夢もみつけていきたいと笑顔で語る。



好奇心の赴くままに挑戦あるのみ！

大辻（おおつじ） 兼一（けんいち）さん

現在も現役で仕事をしている大辻さんは、現役引退後の人脈づくりのために夢追塾に参加した。大辻さんは釣りや絵、プールなどの趣味も多く、積極的に人と関わることが多い。そんな大辻さんは九州の魅力ある人材を発掘する活動をしており「全く知らない人と出会い様々な考え方、価値観に触れることが何よりも楽しい」と話す。仕事や趣味もあり毎週夢追塾でプロジェクトに関して考えたり、予習をしたりすることが大変なこともあった。しかし夢追塾の学習を通して、学生の頃に考えていたようなわくわくすることや仕事をしていると思いつかないような想定外なことにも挑戦できたと言う。卒塾後は大きく2つの目標がある。1つ目は長く続くプロジェクトに関わり続けること。そして2つ目はこれまで経験してきた趣味に打ち込むことである。「常に新しい発見と人脈を大切にし、挑戦し続けたい」と大辻さんは笑顔で言う。

夢追塾に参加したことで、一人で考え込むのではなく皆を巻き込んで考えることが大切だと感じた。私は物事に取り組むときに、壁にぶつかると一人で悩みくじけそうになることがある。「学び続けてみると楽しさがわかる」という姿勢を今永さんから教えていただいた。いくつになっても人との出会いは人生を豊かにするものである。私も様々な人に出会えるように行動力を身につけ、新たな発見や知識を培っていきたいと感じた。

インタビュアー／西（にし） まりな（北九州市立大学経済学部4年生）

仕事が忙しい中で、毎週夢追塾のプロジェクトを進めることは正直難しいのではないかと考えていたが、インタビューを通して考えは変わった。「何事も挑戦」と笑顔でお話しする大辻さんからは忙しさよりも楽しさが伝わってきた。自分の限界を決めず積極的に多くの活動を行う大辻さんの発言は常にどこか楽しそうに聞こえた。私は4月から社会人になるが失敗を恐れず挑戦し続けたいと感じた。

インタビュアー／和田（わだ） 侑博（ゆきひろ）（北九州市立大学経済学部4年生）

大切なのは、人とのつながりとおもしろがる力

小川 裕司（おがわ ゆうじ）さん

写真家として日本だけでなく海外でも活躍されてきた小川さん。この夢追塾には知人からの紹介で入ったが、入塾してよかったと感じているという。夢追塾には、年齢は近いといえど違う環境で生活し、それぞれ違う仕事をし、考え方も異なる多様な人が集まっている。このような環境に身を置いたことはこれまでほとんどなかった。多様な人たちが集まりプロジェクトを進めていく上で、おもしろさを維持しながらまとめていくことは非常に難しくもありおもしろかったという。

小川さんが発案者となったプロジェクトでは、卒塾後にパネル展示会を開催する。これまでも仕事を通じて北九州の魅力を発信してきた小川さんだが、今後もこのような活動は続けていきたいという。様々な街や地域を見てきた小川さんだからこそ感じる北九州のおもしろさや他の街との違いを発信し、いずれはこれらの魅力を語り合えるような場をつくっていきたいと今後の夢を語ってくれた。

「北九州には魅力がたくさんあるのに住んでいる人はその魅力を感じていない」。北九州市で生まれ育った私は、小川さんのその言葉を聞き自分自身も魅力を感じきれていない北九州市民の一人であると感じた。これまで仕事を通じて様々な人たちと関わってきた小川さんだが、現在も学ぶことを忘れず人とのつながりを大切にしている。私も、人との違いを楽しみあらゆる方向から物事を見ることのできる人になりたいと思った。

インタビュアー／高橋（たかはし） 里奈（北九州市立大学経済学部3年生）

今も昔も変わらない大きな目標に向かって

古賀（こが） えみ子（えみこ）さん

今まで出会ったことのない人と出会い、知らなかった世界を知ることができた。約30年前に自分の会社をおこし、現在も元気に仕事をされている古賀さん。この夢追塾での学びが仕事に役立つのではないかと思い、入塾した。仕事が忙しく参加できないことも多かったが、この夢追塾に入って新たな人とのつながりができ、今後も付き合える人ができたことが一番の良かった点だという。しかし、他のグループの人たちとは交流する機会が少なかった。他のグループの人たちともっと情報交換や交流する機会がほしかったという。古賀さんが参加するのは、堀川沿いに紅梅並木を造りミニ太宰府にするというプロジェクト。卒塾後もこのプロジェクトは応援していきたいという。また、今回学んだことを仕事に結びつけ、今後も北九州の役に立てる事業を続けていきたいと今後の目標を語ってくれた。

30代の頃に会社をおこし、現在も「地域に役立つ会社にする」という大きな目標を持っている古賀さんからは、物事を冷静に考える力と視野の広さを感じた。取材の中で、この夢追塾に入塾してよかった点と同じくらいもっとやりたかったことや反省点が挙がった。自分自身の限られた時間をいかに充実したものにするかは、何事にも目的意識を持って取り組み、納得して行動できるかどうかであると今回の取材を通して学ぶことができた。

インタビュアー／高橋（たかはし） 里奈（北九州市立大学経済学部3年生）

長期決戦 プロジェクト始動！

櫻木（さくらぎ） 準一（じゅんいち）さん

櫻木さんが発起人である夢追塾のプロジェクト「チーム語り部」は、小学校で子どもたちに語り部活動を行う。１００年後も「郷土愛に満ち溢れた街　北九州」を目指し、長期にわたり活動したいという。卒塾後の目標は、まずはプロジェクトの継続である。続けるためには、上から指示を出すのではなく、やりたい人にどんどん参加してもらう形を取りたいと考えている。現在のプロジェクトメンバー以外にもたくさんの人に参加してもらう必要があるからだ。櫻木さんは、以前からラグビー教室の子どもたちに自分で考えることの大切さを伝えていた。そして夢追塾がきっかけでもっと広い範囲の子どもに自分で考えて動くことの大切さを伝えたいと考えるようになり、今回のプロジェクトを提案したそうだ。このプロジェクトが子どもたちのやる気を引き出し、自立を促すきっかけになり、北九州を担う人材に育っていくことが櫻木さんの夢だ。

一つ一つの出会いを一生ものに。

定野（さだの） 透（とおる）さん

定野さんは小倉で居酒屋を経営しており、塾生の中にはお客さんもたくさんいた。だが、それ以上に、夢追塾に参加しなければ得ることが無かったであろう新たな出会いが沢山あったという。自分より比較的年上の人が多い夢追塾では人生の先輩から学ぶことも多くあったし、北九州の為に何かしたいという人たちの思いに触れることができた。そして、そんな気持ちを持った人がこんなにいることに驚いたという。色んな人の地域への様々な思いが集まって始動した4つのプロジェクト。今後どういった形でそれぞれのプロジェクトが進んでいくのか知っていきたいという思いがあり、積極的にイベントなどにも参加したいと思っている。もうすぐ夢追塾も卒業で、これまでの活動にはいったん区切りがつくが、夢追塾で得ることができた仲間や地域との繋がりは今後も大切にしていきたいと定野さんは微笑む。

取材を通して、子どもたちを後押ししたいという櫻木さんの熱い思いを感じた。夢追塾に参加するようになり、たくさんの方と関わることができ、熱い思いは何かを成し遂げ得るために必要なことだと私自身も学ばせて貰った。またプロジェクトワークを観察することで、建設的な話の進め方を客観的に判断することができ、自分ができていなかったことに気づけた。塾生の議論する姿を見る中で新たな気づきがあり、共に成長できたと思う。

インタビュアー／田原（たはら） 千賀子（ちかこ）
（北九州市立大学経済学部3年生）

学生へのアドバイスをいただいている時に、「大体の人は〝今の自分のベスト〟を探そうとする」と言われハッとした。これから就職活動をしていこうとする中で私は〝今の自分〟ばかりを軸に考えていた。「与えられた状況が悪くても変えていけばいい。その力が若者にはたくさんある」との言葉を頂き、これから自分はどこに身を置きどう成長していきたいのか前向きに考えられるようになった。

インタビュアー／池上（いけがみ） はるか
（北九州市立大学経済学部3年生）

11期生 Interview

肩書き、年齢関係なし！特別な出会い。

重越（しげこし） 謙二（けんじ）さん

銀行で長い間働いている重越さんは、この夢追塾で自分のスキルや経験を活かして活動したいと考えていた。しかし入塾してみると思っていたのとずいぶん違っていて戸惑ったという。前半部分の研修はこれまでの仕事のやり方とも違っていたし、思っていたプロジェクトづくりとも違っていた。異業種交流でお互いのスキルを共有したいと考えていた重越さんは自分のスキルを活かせることも少なく感じ、やっている内容に不満を持ったこともあった。最初からプロジェクト活動をする時間をもっと多く設けることができれば、プロジェクトがさらに活性化できるはずだと提言する。一番良かった点は多くの人との出会いだ。仕事では名刺交換が当たり前で、肩書きを前提とした付き合いになってしまいがちだが、夢追塾では年上年下関係なく仲間意識を持って接することができたという。今後は北九州に来た人の役に立つようなプロジェクトを行えれば、という。

夢追塾では様々な人に出会えて、とても面白そうだと感じた。重越さんへのインタビューからも分かったように、この夢追塾では、趣味やスキル、人生経験、職種が自分とは違う人に出会えるチャンスがある。私もこの夢追塾で、日頃話をすることもない世代の方々と関わることができた。そこでは新たな価値観を共有することができた。ここでの経験を今後の自分に活かし、重越さんのように自分の仲間の輪を広げていきたい。

インタビュアー／松浦（まつうら） 成美（なるみ）
（北九州市立大学経済学部3年生）

皆から貰った元気。次は私が種を蒔く。

嶋田（しまだ） 真里（まり）さん

「夢追塾に入って元気になった」。嶋田さんは夢追塾での1年間をそう振り返る。入塾する前は、これからは何かに挑戦するというより坂道を下るようなイメージを持っていたし、そうあらねばならないとさえ思っていた。しかし、夢追塾では同じくらいの年齢の仲間が活発に活動していた。彼らとコミュニケーションを重ね、共に活動する中で、自分もまだまだやれそうだと思った。その勇気と元気を夢追塾や仲間からもらったと嶋田さんは言う。これからもチームの活動は続いていくが、卒塾というのはひとつの区切りになる。プロジェクトに今まで通りの時間を割くことは厳しいかもしれないが、できる限り関わっていくそうだ。また、本業の領域でも何かチャレンジしたいと思うようになったと言う。今までに培ったスキルと、夢追塾で学んだ仲間づくりの方法を合わせて、自分主動で何か面白いことをやってみたいと生き生きした笑顔で語る。

年を重ねると昔より活発ではなくなる。以前は、それが当然だと思っていたし、私も何十年後かにはそうなると思っていた。しかし、夢追塾のみなさんは生き生きとしている。家で寝ころび野球中継を見ながら暇そうにしているような人はどこにもいなかった。チャレンジするのに遅すぎるなんてことは無い。今まで分かっているようで分かっていなかった事だが、塾生が頑張っている姿を見て、改めて実感することができた。

インタビュアー／佐山（さやま） 弘記（ひろき）
（北九州市立大学経済学部4年生）

見つけた。最高の仲間、いきいきとできる事。

杣 巖（そまいわお）さん

「チームレインボー」の最年長でリーダーを努める杣さんは、夢追塾で、仕事とはまた一味違う雰囲気を楽しみながら、自分たちのやりたいことを進められているという。今まで何十年間、堅い雰囲気の中で仕事をこなしてきた事に対して、夢追塾では、世代も性別も経験も違う人たちが集まり、柔らかい雰囲気の中プロジェクトを進められてきた。それは自分にとって初めての経験で、とても刺激的なものだった。チームがプロジェクトについて意見交換をする場では、リーダーということもあり議論全体を見守りながらも、課題を発見したときや意見があるときはきちんと発言することを心がけた。卒塾しても今進めているこのプロジェクトを続けていくつもりだ。北九州の新たな魅力を発掘するために、まずは地元の人とコミュニケーションを取る場を増やしていくこと、そのために自分にできることを精一杯取り組んでいくという。

チームのプロジェクトが良い方向に進むよう、見守りながらも気になることは積極的に意見を述べていく姿はまるでチームのお父さんのようだった。そんな杣さんが得意とする「見知らぬひとにも積極的に話かけコミュニケーションを取る」ということは、来年から社会に出る必ず必要となってくる力であり、まだまだ私には備わってないものである。杣さんからの話に限らず夢追塾で学んだことを自分のものにしていきたい。

インタビュアー／鳥越（とりごえ）小由姫（こゆき）
（北九州市立大学経済学部4年生）

〝人〟との出会い＝自分の〝成長〟

鳥飼（とりかい） 久敏（ひさとし）さん

定年退職を迎えた鳥飼さん。最初の一か月ほどは自由な時間ができ楽しかったが、次第に何もすることがなく家にいるのが辛くなってきた。そこで、足を運んだハローワークの人から、「夢追塾に参加したらどうか」と勧められたのが入塾のきっかけだった。夢追塾の他のメンバーの北九州が好きだという思いを目の当たりにし、自分も「人を動かして、楽しい北九州を発信していきたい」という思いで活動してきたと語る。入塾して良かったことは、様々な人と活動していくことで自分にはない良いところを他の人が持っていることに気づき成長できたことや、「神社プロジェクト」の中で今まで知らなかった神様について調べ、直接宮司さんと話すことで神社の面白さに気づけたことだと語る。卒塾後にはプロジェクトを進めていて見つけた「神社間のつながりを作る」「昔の歴史に対する認識を広げる」という2つの目標を達成させるためにパネル展を続けたいという。

鳥飼さんは取材の前に温かい飲み物とお饅頭を渡して、一緒に食べようと言ってくれた。いきなり本題に入るより、リラックスした方がいい対話ができるからだそうだ。また、対面ではなく横に座るなど緊張させない心配りをしていただいた。そのおかげで、笑顔あふれた充実したインタビューができたと思う。相手のことを思いやり、小さな気配りをすることで得られるものは変わってくるということを、実際の行動で教えていただいた。

インタビュアー／土本（つちもと） 彩布（さほ）
（北九州市立大学経済学部3年生）

意志と信念を持って突き進む。

中村 恭子（なかむらきょうこ）さん

「夢追塾での学習の内容はこれまで習ってきたものに近い」と語る中村さんはこれまで夢追塾だけではなく様々な塾やセミナーに通ってきた経験がある。夢追塾のプログラムでは時間に追われ仲間とコミュニケーションをゆっくり取れないと感じることもあった。しかし塾での人との出会いが非常に大きな財産になったという。中村さんは折尾の堀川に梅並木を植え、折尾を風情がある街にするというプロジェクトの発案者として活動してきた。多くの異なる価値観を持つ人と一つの目標に向かう中で、自分の考えと他の人の考えを調節し、より良いものにできたことが嬉しかったと言う。卒塾後は現在の折尾、堀川を夢追塾でのプロジェクトを通して今よりも更に活気のある街にするとともに、入塾以前から関心のあったアジアの地域に学校を創設するという大きな目標も掲げている。中村さんは「歳をとることは怖くない。限界まで自分のできることをしていきたい」と強く意気込む。

止まない好奇心、挑戦は続く。

縄手 富美（なわてふみ）さん

現在、社会福祉協議会で働いている縄手さん。職場の上司に誘われて夢追塾に参加することを決意した。何もわからない状態での参加だった。入塾して良かったことは、自分を見つめ直すいいきっかけになったことだと語る。仕事柄言いたいことは言う、言わないとやっていけない世界だが、グループで話し合いを行う中で、時には黙って他の人の意見を聞くということを学んだという。また、大学生とのコラボも印象に残っているそうだ。松永先生のセミナーや、学生の意見はすごく心に刺さった。学生の熱心な姿勢を見て、若い人ばかりに期待していてはいけない。40代50代の我々もまだまだ頑張らないといけないと思えたそうだ。夢追塾で多くの刺激を受けた縄手さんは、夢追塾での経験を活かして、卒塾後も何か別のことにも挑戦しようと考えている。その一つにブラインドランナーの助成をする活動を挙げてくれた。好奇心旺盛な縄手さんの今後の活躍に目が離せない。

取材を通して中村さんは常に周りの環境に目を向け、疑問を持ち自分に自信を持って行動できる人だと感じた。取材では「夢追塾での分刻みでのスケジュールの中で、人と意見を交換することは難しかった」と聞いたが、それだけメンバーとのコミュニケーションを重要視し、互いの意見を伝え合うことは簡単にできることではないと感じた。「自分の意思を持つ」という言葉は、社会人になる私にとって重要なことであると確信した。

インタビュアー／和田 侑博（わだゆきひろ）
（北九州市立大学経済学部4年生）

他の塾生へのリスペクトや学生に対する感謝の気持ちなど、謙虚な姿勢が印象的だった。また、若い人に期待するだけでなく、自分がやるという姿が素敵だった。「自分がやる」という精神は私自身に不足しているところで、取材を通じて「このままではいけない」と改めて思った。卒塾後に他のことにも取り組んでみたいと語る縄手さんの目は輝いていた。自分もいくつになっても向上心を持ち続けられるような人になりたいと思う。

インタビュアー／齊脇 大駿（さいわきたいしゅん）
（北九州市立大学経済学部4年生）

新天地での スタートは、 夢追塾（ここ）から

萩原（はぎわら） 詩子（うたこ）さん

もともと東京でライターの仕事をしていた萩原さんは、昨年の4月に北九州市に移住してきた。北九州市に知り合いもいなく、北九州市の事に関して調べている際に「夢追塾」を見つけ、入塾を決めた。一番良かったのは、塾生の仕事や経歴に左右されることなく、すべての人が同じ立場で議論し交流することができた事だという。北九州市には知り合いもあまりいなかったが、「夢追塾」の活動を通して塾以外の人ともたくさん出会うことができ、地域の中で人脈が増えていった。萩原さんは企画の発案者として、北九州市の街の魅力を見つけ出すプロジェクトを進めている。北九州市を故郷とする人には気づかない視点で物事を見ている姿がそこにはあった。卒業してからもその活動を継続し、「北九州の魅力を発信し続けていきたい。また、ここでもらえた繋がりのように、今度は自分が誰かのための繋がりを作っていきたい」と語る笑顔がすてきだった。

チームだから、 学び合って 成長できる。

橋谷（はしたに） 政典（まさのり）さん

6店舗もの飲食店を経営している橋谷さんは「忙しくなかなか参加できなかったのが申し訳ない、しかし良い経験になったし良いチームだった」と語った。チーム活動では女性の行動力やパワーに圧倒され、刺激を受けた。チームに足りなかったところはない、と言い切るほどチームワークが良く、そのおかげでコミュニケーション能力の伸びを感じることができた。もともと事業者として人材育成や組織づくりに関心があったが講座などを受けパソコンや経営学にも興味がわいたという。学生へ「目標を持つこと、そして努力し持続すること、そして謙虚さを忘れないことが大事」とアドバイスをいただいた。「長年働いてきて無理もしてきた。自分だけじゃ何もできないことを痛感した。経験から学んだことは多い。何をするにおいても目標を持つことは必要だし、目標がある人は魅力的。また謙虚であり続けることは結構できない人が多い。初心を忘れず頑張ってほしい」と語った。

北九州市の魅力は何かという質問を萩原さんに投げかけながら、22年間北九州市で育った私には自信をもった答えがすぐには思い浮かばなかった。それに対し、移住してきたばかりの萩原さんがたくさんの答えを持ち、またその魅力を届けたいという熱い想いを持っていることに、自分は恥ずかしくなってしまった。当たり前にある日常や環境を当たり前だと思うのではなく、見方を変え、自分で発見していくことの大事さを痛感した。

インタビュアー／山下（やました） 凌（りょう）
（北九州市立大学経済学部4年生）

夢追塾に参加し、うまくいくチームとそうでないチームの違いはチーム内にさまざまなタイプの人がいて、各々の役割を果たしていることだと考えた。実際ゼミでグループワークをしたとき、意見を言う人、フォローする人、まとめる人などがいることでうまくチームとして機能していた。自分一人ではチームは成り立たない。より良い結果に繋げるために客観的に自分の役割を理解し、行動しチームに貢献できる人になりたいと思う。

インタビュアー／橘（たちばな） 好（このみ）
（北九州市立大学経済学部4年生）

北九州に映画村を、夢のために走り続ける。

原（はら）三代子（みよこ）さん

3つのボランティアを掛け持ちしており忙しい毎日を過ごす原さん。そんな日々の中、時間を捻出して参加した夢追塾で手に入れたものは「巻き込み力」だという。これまで自分と考えや趣味が似ている仲間とのコミュニティで過ごしてきた。しかし夢追塾で出会った人々は仕事も趣味も違う人たちばかり。そんな多様な人たちが集まってプロジェクトを企画し実践していくなかで、人の考え方を受け入れ、それぞれの良さを生かすことが楽しくなり、いつの間にか人を巻き込んでいく力を身につけることができたという。卒塾後はこの力を自身の夢を叶えるために活かしたいと語る原さんの夢は、北九州に映画村を作ることだ。そのためにはこの活動に若い力を巻き込んでより活発なものにすることが必要だと考えている。原さんはこれからも夢を叶えるために走り続けるだろう。

夢追塾で成長した力を、自信を持って語れる姿はかっこいい。同じような仲間がたくさんいるコミュニティから一歩踏み出して夢追塾に参加し、数ヶ月に渡って活動してきたからこその自信なのだろうと感じた。「自分と似てない人々」と関わることは勇気のいることだと思うが、原さんはそれをポジティブに捉え、楽しいという。原さんの自分の夢のために積極的にアクションを起こしていく姿を見習い、私も自ら新しいことに挑戦できる人間になりたい。

インタビュアー／富野（とみのこうへい）滉平
（北九州市立大学経済学部3年生）

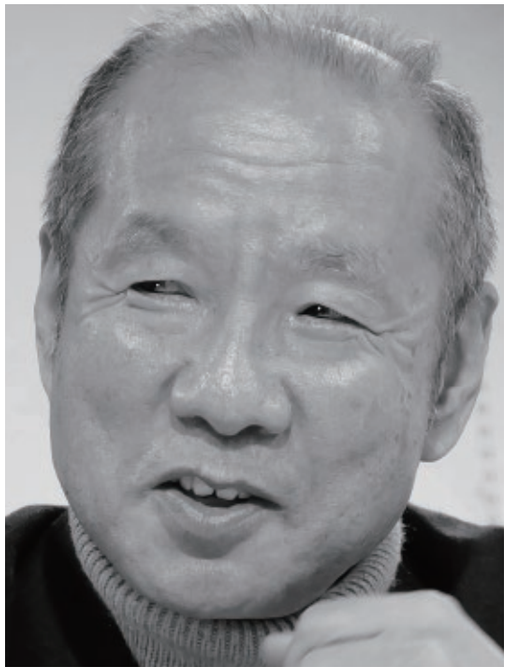
出会いと夢〜夢追塾がくれたもの〜

廣田（ひろた）文代（ふみよ）さん

夢追塾の活動を行っていくなかで、廣田さんは自分自身を見つけることができたという。個性豊かな塾生の皆さんと関わり、自分は真面目で慎重だということに気づいたそうだ。もともと人前で話すことが苦手だったという廣田さんだが、活動の中で発表する機会があったことによって少しは克服でき、何事も経験を積むことが大切だということを再確認することができた。また、夢追塾を通じて、仕事関係以外のいい仲間ができたという。特に、チームの仲間は同じ志を持っていて、活動にも積極的に取り組み、いい雰囲気を作ることができた。そんな仲間とともに、卒塾してからもチームの活動の延長線上で北九州の魅力を何らかの形で発信していくことが廣田さんの夢だ。そのためにも、まずは自分自身が北九州を楽しみたいという。「学生にはたくさんいろんなことを経験してほしい。少しでもやりたいと思ったことはやってみるべき」と笑顔で語る。

普段、塾生の方たちのような年代の人と関わることがないのでいい経験になった。塾生の皆さんが口をそろえて言うのが「場数を踏んで慣れることの大切さ」。それは私自身も実感した。これからは今まで以上に苦手なことにもチャレンジしていきたいと思った。塾生の皆さんを見ていて思うのは、一人ひとりが活動に対してやりがいを感じていて楽しんでいるということ。生き生きしている塾生の皆さんは本当に素敵だ。

インタビュアー／原田（はらだもえぎ）萌黄
（北九州市立大学経済学部3年生）



チャレンジの姿勢！新たな夢、追いかける！

松本（まつもと） 誠（まこと）さん

松本さんが夢追塾に入ったきっかけは、夢を追いかけるという名前に魅かれたからだ。もともとリーダーシップ、コミュニケーション力には自信があった。「短所を伸ばすより長所を伸ばせ」とドラッカーの言葉にあるように、欠点を克服するのではなく自分の強みを生かそうと、夢追塾での活動に取り組んだ。コミュニケーション力をさらに高めるため、本来おしゃべり好きな部分を抑えて相手の話をしっかりと聞き、話をつなげることを心がけたという。夢追塾にはいろんなカラーを持っている方たちがいて、その方たちと関われるのは面白かった。卒塾後には、法律の勉強をしたいと意欲を語る。大学の時は法学部だったという松本さん。当時は学生運動が激しかった時期で、学校が休みになることも多かったこともあり、法律に関しての勉強に後悔があったという。いくつになってもチャレンジを続ける姿勢をとり続ける。

学ぶことに対して意欲的な姿勢は、私には足りない部分だ。松本さんの話を伺って、なんとなく授業を受け、自発的に学びたいという気持ちが弱いことに改めて気づいた。松本さんも自身の大学時代の学びに関して後悔している部分があるという。それは卒業してみて気づくものかもしれない。松本さんへの取材を通し、今まさに就職活動に直面している自分を振り返り、なんとなくではなくしっかりと考えなければいけないと思った。

インタビュアー／田原（たはら） 千賀子（ちかこ）
（北九州市立大学経済学部3年生）

学び続けることでなりたい自分へ

森上（もりかみ） 恭子（きょうこ）さん

夢追塾を通して様々な職種の方達と関係を持つことができた。自分が全く考えたことのなかった他人の夢を一緒に考える中で、どのように自分の力を活かしていくか考えることや学生にコメントをもらえるということが普段できない体験であり、プロジェクトを行う中で刺激を受けた。夢追塾に入って一番リーダーシップを高めたいと考えていたが、この活動を通してリーダーシップが高まったことを感じることはまだ出来ていない。しかし、グループのメンバーがリーダーシップを発揮しているところを感じることで、その人の技を学ぶことが出来た。頼まれると断ることの出来ない自分を変えたいと考えていたが、活動を行う中で、自分が挑戦していることや行動力があることに気付くことができ、自信につながった。卒塾してからは、学んだことをグループの取り組みだけではなく、自分が行っている障害者への支援にも活かしていきたいという。

プロジェクトに直接参加するのではなく、一歩下がったところから観察し、記録やコメントをさせてもらうことで客観的に物事を見る力を高めることが出来た。一方で、多世代の方と対話することは、考え方の違いや伝わらない部分があり、簡単ではなかった。そうした中でも、取材やグループワークなどによって属性の異なる方とコミュニケーションする力は身についたと思う。今後は様々な考えを受け入れられるようになりたい。

インタビュアー／林（はやし） 瑠美（るみ）
（北九州市立大学経済学部4年生）

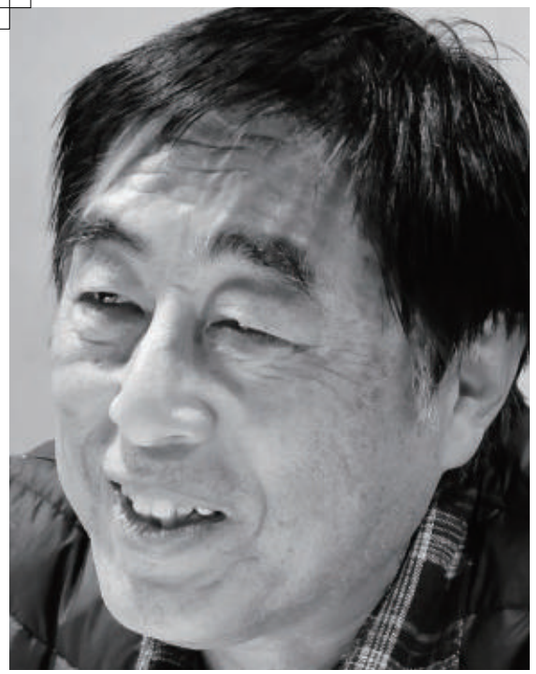
周りを巻き込んでいく〝笑顔〟の発信源

矢治 悦子（やじ えつこ）さん

「いつも明るく、常に笑顔で楽しそう」私が矢治さんに抱いた第一印象である。夢追塾での活動や今回のインタビューを通じて、ますますこの印象は強くなっていった。10ヶ月の夢追塾の率直な感想を伺うと、後期の活動は少し忙しかったが、同時に多くのことを学んだと答えてくれた。それは、普段の生活では知り得ない知識や、自分の中にはない他の人の面白い発想、更にはお孫さんと遊ぶのに適したツールの発見にまで及んだ。「十人十色」をいつも心に留めている矢治さんにとって、普段関わりを持つことが少ない職業、経歴、年代の人たちと毎週集まり、全員が同じ目的を持ち活動を進めていく夢追塾での経験は、今までなかった考え方やアイデアを自分の中に取り込めるとても良い機会だったという。矢治さんを含め、10年先のビジョンまで描いている「チーム語り部」のプロジェクトが子どもたちに郷土愛を伝え続けるべくこの先もずっと続いていくといいなと思う。

今回のインタビューでは普段の夢追塾とは少し違うことを学んだ。〝人間性〟についてだ。矢治さんは、子どもの教育の改善や虐待の減少に長年携わってきた。今は他の仕事をしながらも、小学校の教師にそれらの指導をする機会を設けており、今回のプロジェクトでも子どもの育成に関わっている。ここまで一貫して一つのことに尽力する姿を見て、私も広い視野と行動力を持ち、他人に影響を与えられるような人になりたいと思った。

インタビュアー／小川（おがわ） 裕真（ゆうま）
（北九州市立大学経済学部3年生）



自分を変えるきっかけ、ここで見つけました

山本（やまもと） 正明（まさあき）さん

「楽しくない、嫌だなと思ったら辞めるつもりだった。でも振り返ってみると、本当に充実した時間を過ごすことができ、夢追塾に参加して良かった」と山本さんは語る。明確な目標があって参加したわけではなく、実は入塾式にも出席していない。しかし、これまで関わったことのない人たちと出会い、活動していく中で、いろいろな人の考えを聞き、お互いを刺激し合える関係を築けた今、夢追塾に参加したことは間違ってなかったという。自分とは異なる人と関わることで視野を広げることができた。新たな自分を見つけることもできた。これからの夢は、仲間を集め世代を超えて、チーム語り部の活動を永遠に続けていくこと。子どもたちが元気に暮らしていける環境づくりに取り組みたいという。他にも、語学研修、ラテン文化の勉強、弓道とやりたいことがたくさんある山本さん。「為せば成る」の精神で、失敗を恐れず、生涯現役でチャレンジを続けていきたいと熱く語ってくれた。

私は、何もないゼロの状態から新しいことを企画することが得意ではない。話し合いが思うように進まず、苦戦している塾生の姿を見て、ゼロの状態から企画することの難しさを改めて実感した。また、記録をする中で、物事を客観的に見ることが大切であると感じ、「何故？」と問いかけることで自分の考えを整理し深めることができることを学んだ。主観的ではなく、根拠のあるしっかりとした意見や考えを持てるようになりたい。

インタビュアー／矢野（やの） 千春（ちはる）
（北九州市立大学経済学部4年生）

そうだ、行動してみよう。

夢追塾 コーディネーター
岩崎（いわさき） 克司（かつじ）さん

昨年夢追塾を卒業し、今年はコーディネーターという立場で参加した岩崎さん。もともと夢追塾に関わるのに1年間だけでは短いと考えており、今年度はコーディネーターとして「夢追塾を進化させていきたい」と日々考えながら活動した。コーディネーターとして振り返ってみると、塾生から学ぶ事が多かったという。コーディネーターとして、どうやったら夢追塾が良くなるのか、塾生の一体感やチーム作りがうまくいくには何をすべきかを常に考えていた。そんななか、塾生の「とにかくやってみる」という行動力に驚かされたという。そこから自分自身も考えるよりも行動力を意識するようになった。塾生とコーディネーターの視点は異なるが、両方の視点を経験したことによって学ぶ事もある。今後も11期生との関わりを続けていきながら、プロジェクトのテーマである「旧五市の特徴を生かしながら、北九州を盛り上げる」活動をがんばりたいという。

夢追塾のなかで、塾生のみなさんは新たなことに挑戦しすぐに行動に移していくことに驚かされた。自分を振り返ると行動力が不足していることを、塾生の姿勢から学んだ。行動をすれば失敗することもあるが、それから得ることもある。そこからまた挑戦すれば良い。夢追塾でさまざまな経験をされた方と触れあったことで、これから私は悩むよりも行動力のある人間になって経験値を積んでいきたいと思う。

インタビュアー／遠藤（えんどう） 雅樹（まさき）
（北九州市立大学経済学部3年生）

雨宮（あめみや） 隆（たかし）さん

夢追塾で習得した「おばちゃん力」、「仲間づくり（CO）」、「チーム問題解決（PBL）」は、これからの地域活動では、大事なスキルです。自信を持ってまずはスタートしてください。「一身二生」という言葉があります。一生の間に別々の人生を二回経験するという意味です。私もこの3月末で退職しセカンドステージに入りますので、自分自身も、意識改革によりこれまでとは異なる分野で二回目の楽しい人生を味わいたいと思っています。今こそ、「仲間づくりに」「私たちの夢実現に」帆を上げましょう！

村岡（むらおか） 純（じゅん）さん

10ヶ月間時間に追われ、わけのわからない横文字やワークショップなど本当にお疲れさまでした。個性豊かな人々の集まりで時にはぶつかり合いや、意見の衝突など色々な事がありましたが、卒塾式、謝恩会でのあの晴れやかな顔を拝見し、不安は一気に吹き飛びました。

これからが本当の「スタート」です。今までのチームを継続していきますか？新しい事を始めますか？11期生は何かを起こして下さると信じています。

コーディネーター一同楽しみにしています。

久保（くぼ） サチ代（さちよ）さん

それぞれに素敵な個性をお持ちの11期生。言葉のキャッチボールを楽しみながら、違いを面白がる対話のチカラが働いて、各プロジェクトチームが見事に一つにまとまりました。夢追塾の仲間との出会いは、新たな自分発見の旅でもあったのではないでしょうか。

これからチームの、またお一人おひとりの新しい物語（ナラティブ）が始まりますね。ワクワクドキドキ、楽しみです。

園田（そのだ） 恵（さとし）さん

「みんなが主役」の講座スタイルに戸惑ったでしょうし、今までの「常識」のカベを改めて見直す機会にもなったと思います。夢追塾での1年でかつてない経験と幅広い人脈を会得されたのではないでしょうか！　多くの課題を抱えている北九州市での課題解決は国内のモデルとなり全国に拡散する事でしょう！

「継続は力」、11期生の4プロジェクトが継続・発展する事を期待していますし、新しい課題にも果敢に挑戦しコミュニティ活動に継続的に関わり〝新風〟を巻き起こす事を強く願っています。

ゲストスピーカーの紹介

松永 裕己
（北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授）
◎第1回講座 学び方を学ぶ
◎第8回講座 他世代と学ぶ
◎第25回講座 対話でプロジェクトを鍛える

関 宣昭
（生涯現役夢追塾 事務局長）
◎第1回講座 学び方を学ぶ

雨宮 隆
（生涯現役夢追塾9～11期コーディネーター／生涯現役夢追塾2期生）
◎第2回講座 チームビルド（互いを知る）
◎第3回講座 身近な地域の事例に学ぶ

村岡 純
（生涯現役夢追塾9～11期コーディネーター／生涯現役夢追塾2期生）
◎第2回講座 チームビルド（互いを知る）
◎第3回講座 身近な地域の事例に学ぶ

久保 サチ代
（生涯現役夢追塾10～11期コーディネーター／生涯現役夢追塾9期生）
◎第2回講座 チームビルド（互いを知る）

園田 恵
（生涯現役夢追塾10～11期コーディネーター／生涯現役夢追塾9期生）
◎第2回講座 チームビルド（互いを知る）
◎第3回講座 身近な地域の事例に学ぶ
◎第4回講座 PBLツールトレーニング

岩﨑 克司
（生涯現役夢追塾11期コーディネーター／生涯現役夢追塾10期生）
◎第2回講座 チームビルド（互いを知る）
◎第3回講座 身近な地域の事例に学ぶ
◎第6回講座 ここだけの話（情報力）

齋藤 貞之
（NPO法人 夢追いサポートセンター理事長）
◎第3回講座 身近な地域の事例に学ぶ

古賀 厚志
（北九州市保健福祉局 総務部長／生涯現役夢追塾9期生）
◎第5回講座 ～好きっちゃ北九！～目利き力（北九州力）

羽地 良一
（有限会社 ベスト・チョイス 代表取締役／生涯現役夢追塾10期生）
◎第7回講座 井戸端会議力（コミュニケーション力）

高嵜 勝三
（生涯現役夢追塾10期生）
◎第9回講座 うりこみ力（プレゼンテーション力）

甲木 正子
（西日本新聞社北九州本社 営業部長／生涯現役夢追塾9期生）
◎第10回講座 文句たれ力（問題発見力）

岡部 多恵子
（特別養護老人ホーム・シルバーサンホーム施設長／生涯現役夢追塾10期生）
◎第11回講座 怖いものしらず力（突破力）

鎌田 華乃子
（NPO法人コミュニティ・オーガナイジングジャパン 代表理事）
◎第12回講座 コミュニティ・オーガナイジング①（パブリック・ナラティブ）
◎宿泊研修 コミュニティ・オーガナイジング②（戦略）

松澤 桂子
（NPO法人コミュニティ・オーガナイジングジャパン 理事）
◎宿泊研修 コミュニティ・オーガナイジング②（戦略）

北橋 健治
（北九州市長／生涯現役夢追塾名誉塾長）
◎第13回講座 塾生へのメッセージ

SOCIAL MASTER SCHOOL

11期生 プロジェクト紹介

TEAM A

ぼくらは北九州ものがたり探偵団 北九州神様物語（KKM）プロジェクト

地域に点在するコミュニティの原点であった神社仏閣に焦点を当て、地域に眠るものがたりを再発見、再編集して、市内外に発信。市民一人一人が地元に関心を持ち、北九州市内にあるものがたりや歴史を知ることで郷土愛を醸成する。井筒屋でのパネル展示を企画。学生にも親しめるものがたりの発表を行う。

TEAM B

チーム・レインボー 〝七色の街、北九州〟観光プロジェクト

北九州を住みやすく自慢したくなる街にするために、魅力を再発見し、発信することが目的。それぞれ特色のある北九州七区が持つ独自の歴史を洗い直し、まずは若松から観光ルートを制作。今後順次、各区に広げていく予定。２０１７年５月には「北九州おとな旅モニターツアー」と題し、首都圏からのお客様を迎えてのツアーを実施する。

TEAM C

梅の折尾・堀川「梅の折尾・堀川」プロジェクト

鉄道が交差し、歴史遺産を多く残している魅力的なまち 折尾。「堀川沿いに紅梅並木を植え、折尾をミニ大宰府にしたい」との思いから、実現へ向けての戦略へスタート。プロジェクトのメーカーは折尾地域で約20年間、地道に活動をし続けてきた努力家。目的は折尾、堀川地区を地域のシニアから子供・学生など、多くの人々が集い賑う街を創出していくこと。

TEAM D

アクティブ語り部6人衆「北九州サピエンスが永遠（とわ）に語り継ぐ、我が郷土愛」プロジェクト

目まぐるしく進化する社会の中で、〝他者とのわかちあい〟や〝互いにつながる〟ことを不得手とする子供や大人が増えています。「こども達と共に学び、共に行動する」を合言葉に、北九州のキラリと光るお宝や命の言葉を50ケースみつけ、冊子にして、こども達の前で語り継ぐ活動を展開。「郷土愛に満ち溢れた街－北九州」を目指すプロジェクト。

本当の社会人をめざして

北九州市立大学　マネジメント研究科
松永 裕己（まつなが ひろみ）

大学生の多くは、日常生活の中で家と学校とアルバイト先の三点をあたかもレールが敷かれているように移動しています。そこで出会う大人は限られてきます。親と先生と店長です。友だちはたくさんいますが、世代や属性が違う人としっかりと交わることは極端に少ないのです。夢追塾は、学生にとって、年齢の離れた大人と対話をしながら、あるいはその背中を見ながら学ぶという貴重な機会となっています。

特に就職を控えた4年生にとっては、社会人になる上でとても良い経験になったはずです。

ところで「社会人」とは何でしょう？

英語には社会人という単語はありません。敢えて訳せば、adultもしくはbusiness personでしょうか。しかし、どうもしっくりきません。結局のところ、日本では会社に就職することを指して、社会人になると表現していることが多いようです。では、会社を定年退職したら、仕事を辞めたら、社会人ではなくなるのでしょうか？

私は定年してからが本当の社会人になるチャンスだと思っています。現役で働いていると、職場と家庭の往復の中で地域活動に参加する機会はなかなかありません。人間関係の広がりも限られています。その点で、実は大学生と似ている部分があります。この冊子のインタビューによると、塾生の多くは多様な「仲間」や「出会い」に夢追塾の魅力を感じています。逆に言えば、日常ではそれが少ないことを表しています。

社会人とは、多様な人々で構成される社会の一員として何らかの役割を担うということです。そこでは、会社のような指揮系統もありませんし、家族のような言わずに通じるという関係もありません。○○会社の部長とか、××君のお母さんなどの属性から離れ、自分自身が直接的に地域や社会と触れあう時に、私たちは何ができるでしょうか？

夢追塾はそれを学べる場所だと思っています。もちろん、一人で地域と触れあうわけではありません。そこには夢追塾で出会った仲間がいます。同窓生という味方がいます。卒塾生の皆さんが地域でご活躍されることをお祈りしております。

大学生 夢追塾

北九州市立大学　第11期生

背中を見る人プロジェクト

北九州市立大学経済学部・松永ゼミ

我々、北九州市立大学経済学部松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾のみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、記録し、フィードバックする役割を担ってきました。今年は、夢追塾で学んだことやこれからの夢について塾生に3回のインタビューを行い、最後に記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきたように思います。企画し実践することも学びですし、観察することも学びです。世代を越えて対話することも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見てきた学生から見た塾生の姿をお伝えしました。

卒塾生 プロジェクト紹介

第9期卒塾　林 沙知枝（はやしさちえ）さん

モンゴルからの子供たちのホームステイをたまたま引き受けたことがきっかけで、恵まれない子供たちのための施設が資金難で困っていることを知る。２００５年の北九州市での子供たちのコンサート開催を手伝った縁で２００７年、モンゴルの子供たちを支援しようと「ＮＧＯしらゆり会ハミングバーズ」を設立した。これまでダルハンという町で児童保護施設や保育所を運営、芸術学校の支援を続けるほか、北九州市など各地でモンゴルの子供たちによるコンサートを開催している。こうした長年の青少年育成活動が評価され、昨年はモンゴル政府から叙勲を受けた。

ＮＧＯ設立のころに知人の紹介で「夢追塾」に入塾した林さんは、そこでの塾生との交流で「思いを伝える」ことの大切さを知り、プレゼンテーションの力がついたという。「おかげで昔は活動も60歳までかなと思っていたけど、今では年齢なんて関係ないという境地です」と元気いっぱいだ。

第10期卒塾　大坪 法泰（おおつぼ のりやす）さん

八幡西区黒崎育ちの大坪さんは、父親の木材販売加工会社を継いだ。早くから合板やアルミサッシなどの新建材の時代が来ると予想、建築資材会社として業態を広げて急成長した。それだけに仕事一筋の半生だった。72歳になった一昨年、社長から会長に退くことになり、「これからは時間ができるから好きなウォーキングだけでなく家庭菜園でもやるか」と思い始めたころ、夢追塾９期生の知人から「勉強になるよ」と入塾を進められた。

違和感はあったものの入塾すると、無農薬の野菜づくりを提案する塾生がいて、絶妙のタイミングに驚きながらそのグループに加わった。今では「楽しいアグリ倶楽部」の主要メンバーとして最低週一回は遠賀町の農園に通う一方、会社近くの自分の畑も耕作する。

「夢追塾での新たな出会いは私の大きな財産になった」と語る大坪さん。「95歳まで元気で生きる」というかねてからの目標に自信が湧いてきたという。

「何かやってみよう！」という気持ちを
カタチにするための人と情報のタマリ場

いきがい活動ステーション

いきがい活動ステーションとは？

自分の「●いきがい」をみつけ
地域の中で「▶やくわり」を担い
世代を超えた新しい仲間たちと
「■つながり」をつくる。

シニアのみなさんが積極的にまちづくりに参加していただくことを目的に生涯現役でいきいきと活躍するためのタマリ場がいきがい活動ステーションです。
学びやボランティア活動などの情報提供や相談に応じます。
夢追塾卒塾生の専任コンシェルジュがお待ちしています。

やりたい
やれる
やってほしい

専任
コンシェルジュ
の
サポート

学ぶ
体験する
情報

行動
活動

いきがい 北九州市
活動ステーション

〒802-0006
北九州市小倉北区魚町3丁目3-20中屋ビル地下1階
TEL:093-967-3420　FAX:093-967-3421
Mail: info@iki-st.com　HP: http://iki-st.com
開館時間 9:30～20:00（月曜・祝日・年末年始は休館）

夢追塾って、なに？

1 地域の新しい担い手となる「リーダーシップ」&「フォロワーシップ」

夢や志のある50歳以上の方々が集まり、これまで培ってきた経験やネットワークを使って自分たちの問題は自分たちで解決することができる「新しい地域の担い手」となるための塾です。

2 「仲間づくり」コミュニティ・オーガナイジング

コミュニティ・オーガナイジングは、同じ課題を抱えた仲間同志が一人一人の力を持ち寄り、社会をより良くしようとする手法です。夢追塾では、5つの「仲間づくり」の要素を体験から学びます。

①ストーリーテリング　②信頼関係の構築
③チーム構成の方法　④戦略立案　⑤アクション

他地域での事例から学ぶ
現地で学ぶ視察研修

背中を見る人プロジェクト
北九州市立大学ゼミ生とのコラボ

3 「思いをカタチに」プロジェクト・ベースド・ラーニング

プロジェクト・ベースド・ラーニングとは、「思いをカタチに」するプロセスの中で学んでいく手法です。課題に取り組む中で、広い知識やコミュニケーション能力、チームメンバーとの関係性、創造力など、総合的な課題解決能力を身につけることができます。

①答えを自分たちで発見する
②チームだからこそできる
③PBLは進化していくプログラムです

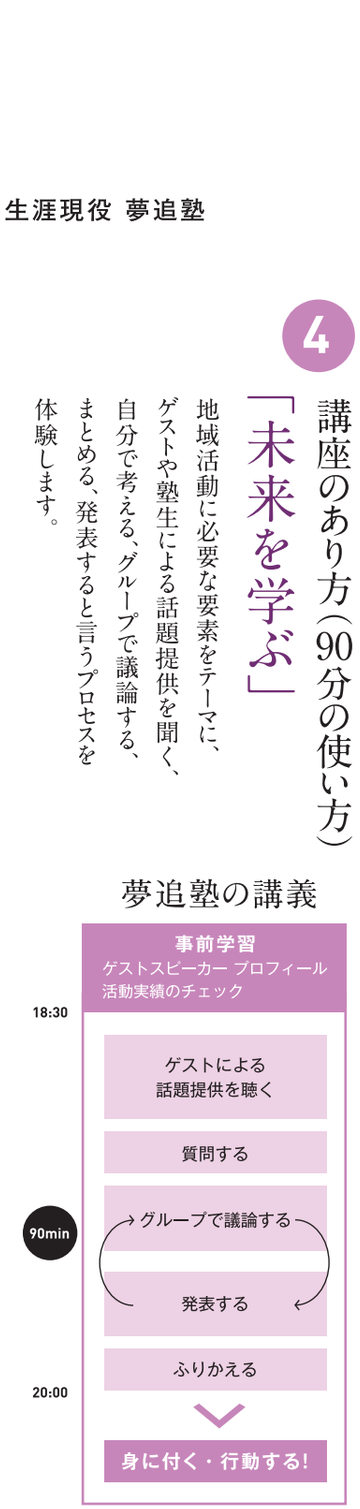
塾生をサポートする産婆さん
コーディネーター

夢追塾ICTツール
❶ 塾生専用のコミュニケーションツール「夢追塾SNS（フジヤマプレース）」
❷ 「e-learningプラス」で学ぶマネジメント

4 講座のあり方（90分の使い方）「未来を学ぶ」

地域活動に必要な要素をテーマに、ゲストや塾生による話題提供を聞く、自分で考える、グループで議論する、まとめる、発表すると言うプロセスを体験します。

夢追塾の講義



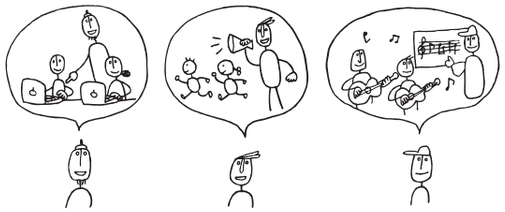
塾生が主役（主体）の講義

学びのポイント

楽しく学ぶ

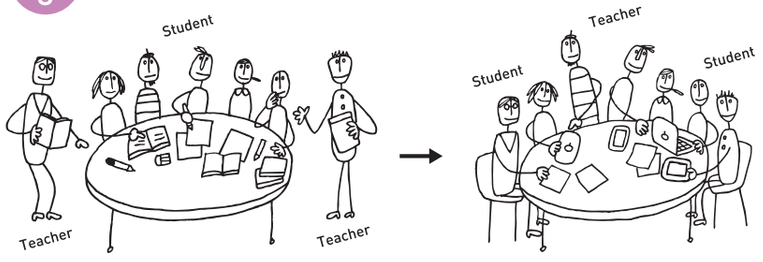
夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、
熱い思いを持った仲間と交流を深める場で
仲間と楽しみながら取り組むことで、
学びが深まる！ここが魅力です。

POINT 1 自分を活かしてお役に立つ

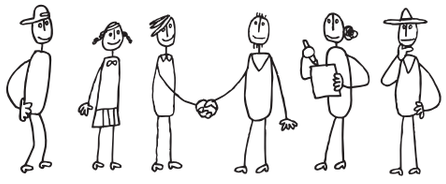


POINT 2 体験から学ぶ

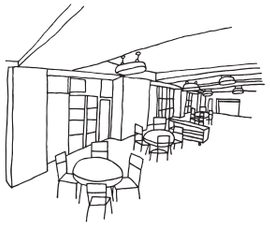
POINT 3 塾生同志で学び合う



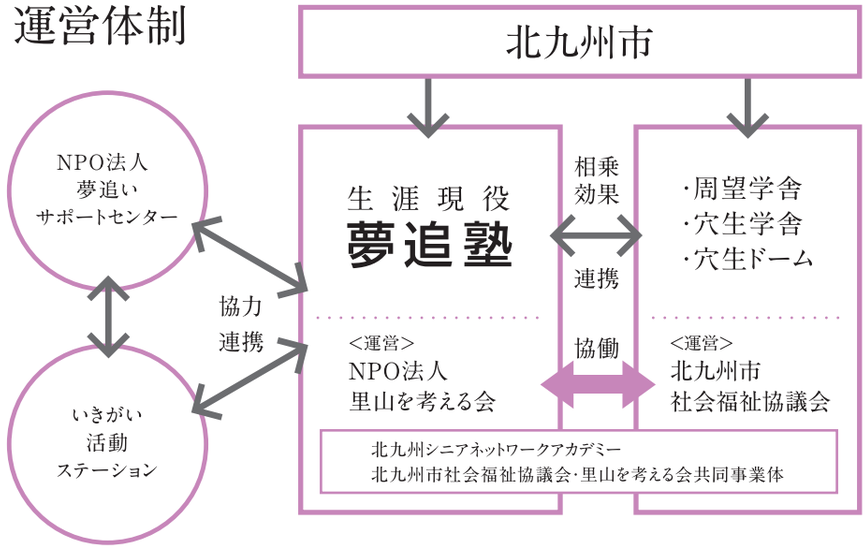
POINT 4 若者と互いに学び合う



POINT 5 まち全体がキャンパス



運営体制



夢追い サポートセンターの紹介

夢追塾は、単なる学びの場ではありません。卒塾後に地域で活躍していただくことこそが夢追塾の成果です。その意味で、卒業したあとが本当のスタートです。

卒塾後の皆さんの活動をサポートする組織として、ＮＰＯ法人「夢追いサポートセンター」があります。ここでは、夢追塾や同窓会と連携を取りながら、卒塾生の活動をサポートします。また、夢追塾には直接関係ないけど地域で活動したいというアクティブシニアのみなさんの活動も支援します。

お気軽にご連絡、ご相談ください。

お問合せ先　TEL.093-662-3900　FAX.093-662-3800
e mail　info@yumeoi-sc.org